

# 京都ロービジョンネットワーク 相談員研修会の取り組みについて



○大内優香<sup>1)2)</sup>、古川千鶴<sup>1)2)</sup>、鈴木佳代子<sup>2)3)</sup>

1)京都ライトハウス 2)京都ロービジョンネットワーク 3)京都府視覚障害者協会



## 1.目的

京都ロービジョンネットワーク(以下ネットワーク)では、医療から構成団体の福祉相談機関への相談件数が2018年4月～2023年3月までの5年間で1,108件あり、年齢や相談内容も幅広い。

そのような幅広いご相談に対し、相談者の方のお困りごとを軽減し、その方が望む生活を実現するためには、相談を受け入れる側の体制づくりが重要となる。ネットワークでは2018年から、構成団体の福祉・教育等関係機関の相談員が顔の見える関係づくりを図り、支援の連携体制を強化すること、相談者の生活やその後の人生をも見据えた視点で対応できる力を養い、向上させることを目的に、相談員研修会(以下研修会)を継続して行ってきた。今回は2023年3月までの5年間の活動について報告する。

## 2.対象と方法

【対象】ネットワークの構成団体で視覚障害の方の相談、支援に関わる職員(以下相談員)

| 種別             | 団体名             | 主な相談の種類                           |
|----------------|-----------------|-----------------------------------|
| 教育             | 京都府立盲学校         | 教育相談                              |
|                | 京都府視覚支援センター     |                                   |
|                | 京都府スーパーサポートセンター |                                   |
| 当事者団体          | 京都府網膜色素変性症協会    | ピア相談                              |
| 盲導犬協会          | 関西盲導犬協会         | 盲導犬利用や盲導犬との生活にまつわる相談等             |
|                | 京都府視覚障害者協会      | 生活相談                              |
| 京都府視覚障害者支援センター |                 |                                   |
| 丹後視力障害者支援センター  |                 |                                   |
| 福祉             | 京都ライトハウス        | 用具、訓練、療育相談等(京都ロービジョンネットワーク総合相談窓口) |

【各機関の京都府内対応エリア】

丹後視力障害者福祉センター



【開催方法】

- ・年2～4回、対面又はオンラインにて実施。
- ・主催はネットワークの事務局が行い、5年目からは参加者を班分けし、各班で企画を立案。
- ・参加者に対し、これまでの研修会で学んだことや今後学びたいこと等を調査する目的でアンケートを実施。

## 3.結果

【開催回数、参加者、内容等】2018年4月～2023年3月

| 開催回数   | 計15回                          | 参加者  | :1回あたり7～9団体、平均22名 |
|--------|-------------------------------|--|-------------------|
| 研修会の内容 | ネットワーク活動報告                    |  |                   |
|        | 各団体の事業内容の紹介、最近のトピックス、制度等の情報共有 | 盲導犬歩行体験、盲学校での授業の工夫の紹介、補装具・日常生活用具の紹介など                                    |                   |
|        | 事例検討、グループ討議                   | 各団体から支援に悩んでいるケースや、相談対応での聞き取り方や支援の引き出しを増やすことを目的とした架空事例、ロールプレイでの検討、グループ討議。 |                   |

【参加者へのアンケートから見てきた研修会開催による効果】

- ①相談員同士の顔の見える関係づくり  
→お互いの仕事内容やケースを共有することで顔の見える関係ができ、日々の相談対応の中で些細なことでも相談・情報共有できるようになり、連携がとりやすくなった。
- ②多職種との多角的な意見交換  
→他職種で意見交換することにより、それぞれの立場から多角的な意見を伺う事ができた。加えて、例えば高齢の方のケース検討では教育の方は直接の分野ではないが、児童、生徒が成人された後の生活を知る機会になるなど、分野を超えた意見交換により、視覚障害の方の生活を知る場にもなっている。

## 4.結論

様々なお困りごとを抱えた相談者の方の望む生活を実現するためには、相談員がその方の生活全般を見据えた視点を持ち、一人ですべてを対応するのではなく、各分野の専門家とつながり連携することが求められる。

今回のアンケート結果からも研修会の継続的な開催により、相談員同士の顔の見える関係ができ、連携促進につながったこと、相談者の方の生活全般を知ること、対応の中での気づきにもつながったことがわかった。

今後も相談員が一体となり、相談者の方の望む生活の実現のため、より安心してご相談いただけるよう研修会を継続して研鑽していきたい。

\* 協力(研修会参加者) \*  
【京都府立盲学校】長谷部光二 【京都府視覚支援センター】井手雅人、島久美、玉井美佳 【京都府スーパーサポートセンター】相根有理子、寺澤麻波美 【京都府網膜色素変性症協会】大菅親子 【関西盲導犬協会】山口浩明、仲宗根瞳、高橋美冬、庄野早紀 【京都府視覚障害者協会】小笠原由香、鳥居真紀、高間恵子 【京都府視覚障害者支援センター】井上雅博 【丹後視力障害者福祉センター】堤隆志 【京都ライトハウス】澤井秀生、山本たろ、奥嶋美紀、山口宏子、山中佳奈子、松本真由美、橋本麗美、田中一也